

各地の話題 ー富山県における植物防疫業務の取組ー

富山県農林水産総合技術センター農業研究所病理昆虫課 岩田 忠康

富山県は北陸の中央に位置し、三方を高い山に囲まれた東西90km、南北76km、総面積4,247km²のコンパクトな県です。気候は、日本海側気候に属し、冬季の冬型の季節風による降雪が最も大きな特徴です。また、気温は日本海を北上する対馬暖流の影響で比較的温暖であり、冬季の降雪が加わることから、わが国有数の降水量の多い地域です。本県における農業粗生産額は673億円（平成20年度）で、このうち米が7割を占めています。全国一高い水田率（96.0%）と前述の気候の影響などから、園芸作物の栽培が少なく生産額は70億円と全国的にも少ないほうです。



富山県農林水産総合技術センター本館

病虫害発生予察は、水稻、大麦、大豆、ネギ、キュウリ、トマト、スイカ、サトイモ、リンゴ、キクの10作物を対象に行っています。主穀作が中心の県であるため、巡回抽出ほ場は水稻45ヶ所、大豆11ヶ所、大麦7ヶ所と主穀作で大半を占めています。また、侵入警戒害虫調査としてチチュウカイミバエのトラップ調査を10ヶ所で実施するとともに、「病虫害防除適期決定ほ場」として32ヶ所、タマナヤガなどの「飛来性害虫予察調査ほ場」として5ヶ所を委託して調査しています。担当職員が3名と少ないため、各JAに病虫害防除員を設置して各地での発生状況を調査してもらっています。



すくい取り調査風景

2008年（平成20年）4月に農業技術センター（農業試験場、野菜花き試験場、果樹試験場、畜産試験場、病虫害防除所）と林業技術センター（林業試験場、木材試験場）、水産試験場および食品研究所を統合し、農林水産総合技術センターが発足し、病虫害防除所業務は農業研究所病理昆虫課に統合されました。現在、病虫害防除所業務の担当は3名で、県下全域を調査しています。行政窓口は、2011年4月の組織改変により農産食品課農産食糧係から農業技術課エコ農業推進係に移っています。

農薬の安全使用に関しては、農薬販売者に対する立入り調査を年間約100ヶ所程度行っており、また、農薬管理指導士に対する研修も行っています。



予察灯